

(3) データベースとしての活用

- 今回の作業に際しては、医事コードレベルでの判別が可能なことを考慮して行った。しかし、診療データとしてはより詳細な区別が必要な場合や(凝固系検査、腫瘍マーカー検査など)、反対にそこまで細かな分類を要しない場合もあると思われる。コード表そのものの活用方法も踏まえてデータベースとしての機能をどこまで盛り込むか議論も必要である。

(4) システム的な実運用の反映

- 現在 JLAC10 コードを用いている多くの施設では、依頼 15 桁、結果 17 桁での運用を行っていると思われる。しかし、15 桁コードでは複数項目が該当する可能性があり頻用コード表も 17 桁を基本と考えている。依頼時にも 17 桁コードを推奨するなど運用指針の見直しが必要と思われる。
- また、一般的にシステム間の依頼情報には項目コードとは別に材料コードが含まれていることが多い。システムごとに個別の材料コードを参照するのか JLAC10 コード内の材料コードを参照するのか、その処理方法はまちまちである。このことは、材料変更などに対応したシステムの場合などにコード不一致を引き起こす一因となりかねず考慮する必要がある。

3. 運用体制整備 WG

(1) 迅速に JLAC10 を附番する体制

- 新しい検査項目、分析装置、試薬が開発されたとき、JLAC10 を迅速に附番するための体制を関連団体と合同でつくる。
- 成果資料としては、関連する団体の役割を明確化した附番時のフローチャート図、附番時に必要な情報収集時の定型書式等になる。

(2) 頻用コード表の検索システムの公開

- 共用化サブ WG から公開される頻用コード表からキーワードで JLAC10 を検索できるシステムを公開する。

(例) 分析物、試薬、分析装置の組合せでの検索

VI. 次年度の検討テーマについてのまとめ

当期、本協議会では、限られた時間のなかで、幅広いテーマの検討を行い、本提言書を作成した。しかし、本協議会の目的である、「医療機関の相互運用性を確保するために、誰もが容易に参照可能かつ利用可能で将来にわたりメンテナンスを継続される標準を作成し、公開する。」という観点からすると、更なる改善が必要である。次年度も、臨床検査項目標準マスターの完成に向け、本協議会の活動を継続する。

次年度の注力課題は、次のとおりである。

- ・ JLAC10 の構造の見直しによる再コーディング検討
 - ※ 本提言書に記載した改善課題も含めて、見直し作業を実施する。
- ・ JLAC10 を構成要素とした頻用コード表の作成・公開
 - 対象とする検査項目の拡大
 - 対象とする情報種類の充実
- ・ JLAC10、頻用コード表の迅速な附番体制の確立
- ・ JLAC10、頻用コード表を容易に使用するための各種ツールの公開

VII. 最後に

本協議会は、JSLM・JAMI・MEDIS が発起人となり各関連団体の協力を得て、平成 24 年 6 月に設立し、幅広いテーマを短期間で検討し、約 9 ヶ月間で本提言書を取りまとめることができました。検討作業に参加して頂いた各委員の皆様に深く感謝いたします。

しかし、前述のとおり、当年度の提言書では、相互運用性の確保という目的を達成するには、改善が必要な部分もあります。従って、本協議会の目的を達成できる「臨床検査標準マスター」の開発を平成 25 年度も継続して実施する所存です。今後のご協力、よろしくお願い致します。

【資料①】改善サブWG まとめ

1. 分析物コードについて(資料③)

(1) 分析物セットコードによる項目の重複化問題について検討した。

目的:追加されたセットコードによるコードの重複化の把握および解消。

問題となるセットコード

1A9900000001920	尿一般物質定性半定量検査
1A9910000001920	先天性代謝異常症スクリーニング
1A9920000001920	ポルフィリン症スクリーニング
1C9900000041920	髄液一般検査
1Z9900000051920	胃液・十二指腸液一般検査
1Z9920000051920	精液一般検査
2A9900000019920	末梢血液一般検査

(2) 結論:セットコードを追加したために、重複となっているコードについての対応

- ① 使用者に重複コードとなっていることを周知させる。
- ② 重複となっているセットコードと個別コードの対応表を作成し公表する。
- ③ 通常はセットコードを使用し、個別コードは、個々の検査依頼の場合のみに使用する。

以上を適用細則などで周知させることで対応する。

(3) 討議内容

まずは、重複コードとなっているセットコードについて、対応表を作成し公表することで使用に注意を促すことが提案された。また、どちらをメインに使用するか？については、結果固有情報が欠損するなどの理由から、セットコードはなるべく使用せず、セットコードの分析物コードを医事請求コードとし、従来の個別コードを対応させる案も提案された。しかし、現在では血算検査や尿定性検査などは、ほぼすべての施設において自動測定装置を使用し、セットコードの検査結果が一度に出力されることから、セットコードの方が現状に適していること。診療報酬点数請求への対応でも、セット依頼がメインであること。個別コードでは対応が困難な項目があること。などの理由から、セットコードを優先的に使用すること。また対応表や使用方法については、適用細則などで指示することとした。

2. 識別コードについて(資料②)

(1) 識別コードについて、現状では有効でないコードの把握および対応について検討した。

目的:現状に合っていないコードおよび分析物の補助的な役割のコードを削減し、コードの重複化や正確な附番を容易にする。

(2) 結論:削除・または使用しない方がよいコードについて、検体識別(1301~1320)、CD分類関連(3001~5921)コードとした。コードを削除しない場合の対応は、「使用する場合は、同一

施設内のみのコードとして使用し、地域連携等の外部連携には使用しないこと。」を適用細則などで周知させる。

- (3) 討議内容:候補コードとして、検体識別、CD 分類関連、定性・定量、負荷試験が提案された。定性・定量コードおよび負荷試験コードについては、現状で使用している施設が多いこと、削除した場合の代案の検討などの問題があり、今期での削除は行わないこととした。検体識別と CD 分類関連コードについては、使用することでコードが重複化することを理由とし、削除または、外部連携での使用を避けることが望ましいとした。

3. 測定法コードへの対応。(資料⑤⑥)

- (1) 共用化サブ WG からの資料を基に主に生化学検査項目の粒度について検討した。
目的:生化学検査項目の測定法コードについて、附番における問題の解消と粒度の在り方について方向性を示す。
- (2) 結論・討議内容:共用化サブ WG にて集めた資料をもとに検討したところ、生化学検査項目対応の測定法コード、可視吸光光度法(271)、紫外吸光光度法(UV 法)(272)では実際の検査方法では複数の検査法が当てはまり、附番を困難にしていた。またこの中には、JSCC 標準化対応法(現在8項目)があるが JLAC10 測定法コードの 271 と 272 の両方を含むため、附番には注意を要する(資料4)。これらの対応として、主な生化学検査項目における対応表を作成した。
しかしながら、測定法コードの粒度に関しては、現状維持か詳細に分類するか?の結論は得られなかった。
その理由は下記のとおりである
- ① 地域連携における測定法コードの役割は測定法の違いによるデータの相違を区別することにあるが、同一測定法においても検査結果に相違が生じている現状では、無意味である。これを試薬品名・キャリブレーター・測定機器まで細分化することで、ある程度データの統一性を保つことは可能あるが、コードの階層化や JLAC10 の構造変更が必要な点やコードメンテナンスにかかる労力等を考慮すると今期での改善は困難との結論となった。
 - ② 検査センターでは通常の病院と異なり 1 検査項目に対して複数の測定法での検査を提供している。現状の測定法分類では粒度が荒くこれらに十分対応出来ていない。これに関しても、今期は十分な現状把握をしておらず、今後の検討課題としたい。

以上より、測定法の分類に関して明確な最良点を見出すことが出来ない状況である。

今回は、JLAC10 測定法への対応表を作成して附番を容易にすることで対応するが、まだ不十分な出来である。来期には、共用化サブ WG での検討を十分に踏まえ、さらに充実させる必要がある。

また粒度問題に関しても、何らかの結論を出す必要があると思われる。

尚今回の対応表の作成には、共用化サブ WG の資料および日本臨床検査技師会の精度管理資料を参考とした。

4. 材料コードについて(資料⑦)

- (1) 材料コードについて附番の問題について共用化サブ WG からの資料を基に検討した。
目的:材料コード整理することで、附番を容易にする
- (2) 結論:今回項目内容の変更は行わないこととした。しかしながら、共用化サブ WG の資料では、糖負荷時間・血液ガスなどで附番が一致していないことから、附番に迷う例として使用方法を記載することで対応する。以下例として
血液ガス分析は、全血(添加物入り)(019)を使用する。
糖負荷試験については、血糖負荷:血漿(022)、尿糖負荷:尿(001)を使用する。
- (3) 討議内容:一般的には使用頻度が無いと思われる尿の項目や検体検査以外の項目削除の意見が出されたが、JLAC10 では検体検査のみを扱うわけではなく、幅広い対応が求められる。との理由から、今回内容の改定は見送った。
その他に附番困難と思われる項目として、共用化サブ WG の資料から、血液ガス分析で、全血(018)、全血(添加物入り)(019)動脈血(020)と附番されていた。糖負荷時間では、血糖では、血漿(022)でほぼ統一されていたが、尿糖では、尿(001)、時間尿(005)、負荷後尿(007)など統一されていなかった。
これらについては、適用細則などで統一させる必要がある。

5. JLAC10の構造変更について(資料⑧)

- (1) データの二次利用に有用なJLACとするための構造変更について検討した。
目的:JLAC10の体系をなるべく崩さずにJLAC10の構造を変更することで、データの2次利用に有効なコードとすること。
- (2) 結論:構造変更に伴うシステム運用上の問題が大きく対応が困難である。構造変更を行うのであれば、JLAC11 とすべきなどの意見が出され、今期は、議論は行うが構造変更の提案を行わない方針となった。
- (3) 討議内容:今回下記の提案がなされ、これについて検討した。(詳細は別紙参照)
1.地域連携が必要な項目に対して検査が一意に表現される17桁のセットを提供する。
2.分析物=分析物+識別とし9ケタとする。
3.分析物(分析+識別)+新識別で9ケタとする。

いずれも、検討不十分にて明確な有益性を示すには至らなかったが、今後も検討を続ける必要があるとの認識では一致した。

6. 今回の詳細な検討まで及ばなかった課題について

(1) 結果識別コード

結果識別コードは、結果の定性・定量・%などの属性を示す共通コードと依頼:結果が1:n時にnを表示する固有コードに分けられている。固有コードを使用すると、結果の属性が不明となる問題点について検討した。これを改善するためには、JLAC10の構造変更が必要となり、「JLAC10の構造について」と同じ理由で変更を見送った。しかしながら、現状でも結果共通コードを有する項目が結果固有を有するコードへ変更する場合、符番に問題が残る。これについても検討が必要である。

(2) 検査センターと病院間の連携について

検査センターでは、病院と異なり1検査項目に対して複数の測定法で提供しており、現在の測定法の粒度ではコードの重複化が起きてしまう。また、病院間との紐付において問題となるのが検査項目に対応する結果構成のちがいについてである。

検査センターと病院間連携問題は、目的として挙げられていたが今回の検討課題として討議に至らなかった。次年度の検討課題とする。

(3) 新たな問題点(今回の改善サブWGにて新たに提案された問題点について)

(4) ①個別コードの重複

- ・対象疾患毎に検査項目を設定しているため、コードが重複する。

(5C146:デオキシピリジノリン、5C123:NTx)

- ・採取場所での区分が必要(5E046:エンドトキシン)

- ・新技術の増加による重複(遺伝子検査など)

- ・分画項目で、分画子項目のコードが重複(サイトメガロウイルス、C7HRP、抗核抗体、など)

- ・同一項目にて、測定試薬(メーカー)が異なるため重複。(CA72-4、TRAb など)

②各構成要素において、分野による区分度合いに差が見られる。

- ・分析物コード:染色体検査(血液疾患)の細分類が必要と思われる。

- ・材料コード:咽頭の擦過物の場合に、'64'か'85'かの選択が難しい。

- ・測定法コード:病理組織・細胞染色(I)が特に細かい。対して、遺伝子工学的測定法は新設が必要と思われる。

これらについても、今後検討および対応が必要である。

補足

今回の改善サブWGは、多くの課題の中から重複コードへの対応と附番困難要因の解消を主な課題として討議を行った。6月からの開始と期間が少なかったため検討範囲が主に生化学検査となり対応も対症的な解決法の提示となったが、ある程度の効果があると考えている。今後も共有化サブWGとの連携により適応範囲を拡大することで、より良いものになると思われる。

データ二次利用の課題として、データの標準化が必須であるが、現在JSCC標準化対応法による項目がAST、ALT、LD、ALP、CK、 γ GTP、AMY、ChEの8項目で実現している。これらは、測定法だけでなくキャリブレーターや基準値を一致させた測定法であり、今後このような標準化された項目を大幅に増やすことができれば、測定法に縛られないという点で測定法コードの対応も大きく変わるとと思われる。また、別の対応方法としては、ビッグデータのデータ収集・解析専用コードとして、今回の「JLAC10の構造について」で議論となったJLAC11の創設も一案と思われる。

JLAC10 は、初期の設定機能よりも多くの機能が求められている。今後も細菌や生理検査などより多くの要望に応えるための整備が必要である。そのためには、JLAC10 における目的の優先度をしっかりと決めておく必要がある。これについても、今後の課題の一つとして考慮する必要がある。

文責 清水一範

【資料②】JLAC10 附番ガイド

JLAC10 の正確な附番を行い、コードの統一性を保つために作成した。(JLAC10 適用細則と併せて活用する。)

1. 分析物コード(資料③:分析物セットコードと個別コードの対応表)

下記に示す分析物セットコードでは、個別コードにも同じ検査項目が存在するために使用することで、コードが重複することがあります。

1A990000001920	尿一般物質定性半定量検査
1A991000001920	先天性代謝異常症スクリーニング
1A992000001920	ポルフィリン症スクリーニング
1C990000041920	髄液一般検査
1Z990000051920	胃液・十二指腸液一般検査
1Z992000051920	精液一般検査
2A9900000019920	末梢血液一般検査

使い方の指針

自動分析装置などで通常検査を行う場合は、上記セットコードを使用し、個別コードは、単項目のみの検査を行う場合に使用すること。

2. 識別コード(資料④)

検体識別コード(1301～1320)およびリンパ球サブセットの CD 分類関連コード(3001～5921)については、使用することでコードが重複化する可能性が高いため、極力使用をさけること。使用する場合は、同一施設内のみとし、地域連携など外部との連携には使用しないこと。

* 検体識別コードは、同一項目を一度に複数オーダする場合の使用を目的として作成された。

* CD 分類関連コードは、リンパ球サブセットの CD 分類に使用した抗体名を判別するために作成された。

3. 材料コード、(資料⑦:材料コード 共用化サブ WG 資料より)

尿および血液について

特別な場合を除き、尿は尿(含むその他の尿)(001)および蓄尿(004)に分類し、血液は全血(018)、血漿(022)および血清(023)に分類すること。

糖負荷試験の材料には、血糖は血漿(022)、測定法により全血(添加物入り)(019)、

尿糖は尿(含むその他の尿)(001)を使用することが望ましい。

全血(添加物入り)(019)については、抗凝固剤、抗血小板剤等の添加物により検査材料の安定化を必要とし、全血で行う検査に適用する。

使用例:血球数算定検査や血液ガス分析検査などに使用する。

4. 測定法コード(資料⑤⑥:頻用生化学項目における測定法コードの対応)

測定法コード可視吸光光度法(271)、紫外吸光光度法(UV 法)(272)においては、現状では多くの測定方法が当てはまる。これにより附番の誤りが多く発生している。

使用頻度の多い生化学検査項目について、検査項目ごとに測定方法の対応表を作成しので参考とすること。この表に掲載されていない測定法に関しては、JLAC10(****jlc4 ファイル)で確認すること。

以上

〔資料③〕 分析物セットコードと個別コードの対応表

* 黄色は、個別コードでの欠損：個別コード対応

セットコード	分析物	識別	固有	分析物
1A990000000192	尿一般物質定性半定量検査	1A990	0000 00	尿一般物質定性半定量検査
		1A990	0000 51	比重
		1A990	0000 52	pH
		1A990	0000 53	蛋白
		1A990	0000 54	糖
		1A990	0000 55	ウロビリノーゲン
		1A990	0000 56	ウロビリリン
		1A990	0000 57	ビリルビン
		1A990	0000 58	ケトン体
		1A990	0000 59	潜血
		1A990	0000 60	細菌（試験紙法）
		1A990	0000 61	食塩
		1A990	0000 62	白血球数（試験紙法）
		1A990	0000 63	アルブミン
1A991000000192	先天性代謝異常症スクリーニング	1A991	0000 00	先天性代謝異常症スクリーニング
		1A991	0000 51	フェニルケトン体・アルカプトン体
		1A991	0000 52	酸性ムコ多糖類
		1A991	0000 53	S H化合物
		1A991	0000 54	ヒスチジン
		1A991	0000 55	メチルマロン酸
		1A991	0000 56	Millon反応
		1A991	0000 57	イサチン反応
		1A991	0000 58	Benedict反応
1A992000000192	ポルフィリン症スクリーニング	1A992	0000 00	ポルフィリン症スクリーニング
		1A992	0000 51	Watson-Schwartz反応
		1A992	0000 52	Rimington反応
		1A992	0000 53	Dean and Barnes反応
1C990000004192	髄液一般検査	1C990	0000 00	髄液一般検査
		1C990	0000 51	外見
		1C990	0000 52	比重
		1C990	0000 53	グロブリン反応
		1C990	0000 54	トリプトファン反応
		1C990	0000 55	細胞数
		1C990	0000 56	細胞の種類
		1C990	0000 57	蛋白
		1C990	0000 58	グルコース
		1C990	0000 59	ビリルビン
		1C990	0000 60	ケトン体
1Z990000005192	胃液・十二指腸液一般検査	1Z990	0000 00	胃液・十二指腸液一般検査
		1Z990	0000 51	量
		1Z990	0000 52	色調
		1Z990	0000 53	混濁
		1Z990	0000 54	粘液量
		1Z990	0000 55	臭気
		1Z990	0000 56	酸度
		1Z990	0000 57	ペプシン・乳酸
		1Z990	0000 58	ラブ酵素
		1Z990	0000 59	蛋白
		1Z990	0000 60	毒物
		1Z990	0000 61	潜血
		1Z990	0000 62	虫卵
		1Z990	0000 63	ウロビリリン
		1Z990	0000 64	コレステリン
1Z992000005192	精液一般検査	1Z992	0000 00	精液一般検査
		1Z992	0000 51	量
		1Z992	0000 52	精子数
		1Z992	0000 53	奇形の有無
		1Z992	0000 54	運動能
2A990000001992	末梢血液一般検査	2A990	0000 00	末梢血液一般検査
		2A990	0000 51	赤血球数
		2A990	0000 52	白血球数
		2A990	0000 53	ヘモグロビン
		2A990	0000 54	ヘマトクリット
		2A990	0000 55	血小板数
		2A990	0000 56	M C V
		2A990	0000 57	M C H
		2A990	0000 58	M C H C

〔資料④〕 検体識別コード 使用を避けるコード一覧

1301	検体識別- 1
1302	検体識別- 2
1303	検体識別- 3
1304	検体識別- 4
1305	検体識別- 5
1306	検体識別- 6
1307	検体識別- 7
1308	検体識別- 8
1309	検体識別- 9
1310	検体識別-10
1311	検体識別-11
1312	検体識別-12
1313	検体識別-13
1314	検体識別-14
1315	検体識別-15
1316	検体識別-16
1317	検体識別-17
1318	検体識別-18
1319	検体識別-19
1320	検体識別-20

3001	T6	CD1a
3002	Leu6	CD1a
3003	DK-CD1a	CD1a
3004	IOT6	CD1a
3005	IOT6a	CD1a
3006	OKT6	
3021	NU-T2	CD1b
3022	IOB6	CD1b
3031	IOT6c	CD1c
3041	T11	CD2
3042	Leu5b	CD2
3043	OKT11	CD2
3044	NU-Ter	CD2
3045	NUTL	CD2
3046	DK-CD2	CD2
3047	IOT11	CD2
3048	IOT11a	CD2
3071	T3	CD3
3072	Leu4	CD3
3073	OKT3	CD3
3074	NU-T3	CD3
3075	DK-CD3	CD3
3076	IOT3	CD3
3077	IOT3b	CD3
3091	T4	CD4
3092	Leu3a	CD4
3093	Leu3a+3b	CD4
3094	OKT4	CD4
3095	OKT4A	CD4
3096	NU-TH/1	CD4
3097	DK-CD4	CD4
3098	IOT4	CD4
3099	IOT4a	CD4
3111	T1	CD5
3112	Leu1	CD5
3113	OKT1	CD5
3114	NU-Tpan	CD5
3115	DK-CD5	CD5
3116	IOT1a	CD5
3131	T12	CD6
3132	OKT12	CD6
3133	OKT17	CD6
3134	DK-CD6	CD6
3135	IOT12	CD6
3141	3A1	CD7
3142	Leu9	CD7
3143	OKT16	CD7
3144	T55	CD7
3145	DK-CD7	CD7
3146	IOT7	CD7
3161	T8	CD8
3162	Leu2a	CD8
3163	Leu2b	CD8
3164	NU-Ts/c	CD8
3165	DK-CD8	CD8
3166	IOT8	CD8
3167	IOT8a	CD8

3452	Leu14	CD22
3453	OKB22	CD22
3454	CLB-Bly	CD22
3455	DK-CD22	CD22
3456	IOB22	CD22
3471	B6	CD23
3472	Leu20	CD23
3473	H107	CD23
3474	DK-CD23	CD23
3475	IOB8	CD23
3491	OKB2	CD24
3492	IOB3	CD24
3501	IL-2R1	CD25
3502	Anti-IL2R	CD25
3503	OKT26a	CD25
3504	DK-IL2R	CD25
3505	IOT14	CD25
3506	IOT14a	CD25
3521	Ta1	CD26
3522	IOA2b	CD26
3531	IOT27	CD27
3541	Leu28	CD28
3542	KOLT-2	CD28
3543	IOT28	CD28
3551	4B4	CD29
3552	IOT29	CD29
3561	DK-CD30	CD30
3562	IOA30	CD30
3563	IOA30a	CD30
3571	IOM31	CD31
3581	IOM32	CD32
3592	MY9	CD33
3593	LeuM9	CD33
3594	DK-CD33	CD33
3595	IOM33	CD33
3596	BD-CD33	CD33
3611	MY10	CD34
3612	HPCA-1	CD34
3613	HPCA-2	CD34
3614	DK-CD34	CD34
3615	IOM34	CD34
3616	ORTHO-CD	CD34
3631	Anti-CR1	CD35
3632	DK-CD35	CD35
3633	IOT17	CD35
3641	OKM5	CD36
3642	IOP36	CD36
3651	DK-CD37	CD37
3652	IOB1	CD37
3661	T10	CD38
3662	Leu17	CD38
3663	OKT10	CD38
3664	IOB6	CD38
3671	IOB39	CD39
3691	Plt-1	CD41a
3693	IOP41a	CD41a
3694	CLCD41	CD41

3168	OKT8	CD8
3181	J2	CD9
3182	TP82	CD9
3183	IOB2	CD9
3191	J5	CD10
3192	Anti-cALLa	CD10
3193	OKB-cALLa	CD10
3194	NU-N1	CD10
3195	NU-N2	CD10
3196	DK-CD10	CD10
3197	IOB5	CD10
3198	IOB5a	CD10
3211	Anti-LFA1a	CD11a
3212	SPV-L7	CD11a
3213	DK-CD11a	CD11a
3214	IOT16	CD11a
3221	Mo1	CD11b
3222	Leu15	CD11b
3223	OKM1	CD11b
3224	Bear-1	CD11b
3225	DK-CD11b	CD11b
3226	IOM1	CD11b
3241	LeuM5	CD11c
3242	FK24	CD11c
3243	DK-CD11c	CD11c
3244	IOM11c	CD11c
3251	MG14	CDw12
3261	MY7	CD13
3262	LeuM7	CD13
3263	OKM13	CD13
3264	MCS-2	CD13
3265	DK-CD13	CD13
3266	IOM13	CD13
3267	BD-CD13	CD13
3281	MY4	CD14
3282	Mo2	CD14
3283	LeuM3	CD14
3284	OKM14	CD14
3285	CLB-Mon	CD14
3286	DK-CD14	CD14
3289	IOM2	CD14
3301	MY1	CD15
3302	LeuM1	CD15
3303	OKM15	CD15
3304	MCS-1	CD15
3305	DK-CD15	CD15
3306	ION1	CD15
3331	MY23	CD16a
3332	Leu11	CD16a
3333	OK-NK	CD16a
3334	MG38	CD16a
3335	DK-CD16	CD16a
3336	ION16	CD16a
3371	Anti-LFA1b	CD18
3372	CLB-LFA1	CD18
3373	DK-CD18	CD18
3374	IOT18	CD18
3381	B4	CD19
3382	Leu12	CD19

3701	IOP41b	CD41b
3702	TP80	CD41b
3711	IOP42a	CD42a
3712	BD-CD42a	CD42a
3721	IOP42b	CD42b
3722	CLCD42b	CD42b
3751	Leu22	CD43
3752	DK-CD43	CD43
3761	Leu44	CD44
3762	MEM-85	CD44
3763	IOL44	CD44
3764	PM-CD44	CD44
3781	KC56	CD45
3782	Anti-Leuco	CD45
3783	NU-Lpan	CD45
3784	IOL1	CD45
3785	Anti HLe-1	CD45
3791	2H4	CD45RA
3792	Leu18	CD45RA
3793	DK-CD45R	CD45RA
3794	IOL2	CD45RA
3801	DK-CD45R	CD45RB
3811	Leu45RO	CD45RO
3812	UCHL1	CD45RO
3813	DK-CD45R	CD45RO
3814	IOL3	CD45RO
3821	IOL46	CD46
3841	IOL48	CD48
3861	IOL49b	CD49b
3871	IOL49c	CD49c
3881	IOL49d	CD49d
3891	IOL49e	CD49e
3901	IOL49f	CD49f
3921	IOP51	CD51
3951	Leu54	CD54
3952	IOL54	CD54
3961	ST-CD55	CD55
3962	CLCD55	CD55
3971	NKH-1	CD56
3972	NKH-1A	CD56
3973	Leu19	CD56
3974	DK-CD56	CD56
3975	IOT56	CD56
3976	IOT56a	CD56a
3991	Leu7	CD57
3992	IOT10	CD57
4001	IOT58	CD58
4011	ST-CD59	CD59
4012	CLCD59	CD59
4031	OKPLT	CD61
4032	DK-CD61	CD61
4033	IOP61	CD61
4041	IOP62	CD62
4042	Leu8	CD62L
4071	IOP63	CD63
4091	ION3	CD65
4111	ION2	CD67
4131	Leu23	CD69
4132	IOP69	CD69

3383	OKB19	CD19
3384	CLB-CD19	CD19
3385	DK-CD19	CD19
3386	IOB4a	CD19
3401	B1	CD20
3402	Leu16	CD20
3403	OKB20	CD20
3404	NU-B2	CD20
3405	IOB20	CD20
3406	IOB20a	CD20
3431	B2	CD21
3432	Anti-CR2	CD21
3433	OKB7	CD21
3434	DK-CD21	CD21
3435	IOB1a	CD21
3436	PM-CD21	CD21
3451	B3	CD22

4141	IOA70	CD70
4151	T9	CD71
4152	Transf. Rc	CD71
4153	OKT9	CD71
4154	NU-TfR	CD71
4155	DK-CD71	CD71
4156	IOA71	CD71
4171	IOB72	CD72
4191	LN-2	CD74
4201	LN-1	CDw75
4221	IOB77	CD77
4231	Leu-21	CD78
4431	Anti Fas	CD95
4661	c-kit	CD117
4731	Mik-b 1	CD122
5901	LeuHLA-DR	HLA-DR
5902	OKIa1	HLA-DR
5921	Leu10	HLA-DQ

〔資料⑤〕 頻用生化学項目における測定法コードの対応表

検査項目名	分析物	コード	測定方法
総蛋白	3A010	271	ビュレット法
アルブミン	3A015	271	BCG法
	3A015	271	BCP法
	3A015	271	BCP改良法
	3A015	232	電気泳動法
	3A015	061	免疫比濁法
TTT	3A025	292	日本消化器病学会肝機能研究班標準法
	3A025	292	比濁法(肝機能研究班標準変法)
ZTT	3A030	292	日本消化器病学会肝機能研究班標準法
	3A030	292	比濁法(肝機能研究班標準変法)
クレアチンキナーゼ	3B010	272	JSCC標準化対応法
	3B010	272	IFCC標準化対応法
	3B010	272	GSCC標準化対応法
	3B010	272	クレアチン酸・UV法(Wrosalki変法)
GOT	3B035	272	JSCC標準化対応法
		272	IFCC標準化対応法
GPT	3B045	272	JSCC標準化対応法
		272	IFCC標準化対応法
LDH	3B050	272	JSCC標準化対応法
	3B050	272	GSCC/IFCC標準化対応法
	3B050	272	SSCC標準化対応法
	3B050	272	SFBC標準化対応法
	3B050	272	Wroblewski-Ladue法
アルカリフォスファターゼ	3B070	271	JSCC標準化対応法
	3B070	271	IFCC標準化対応法
	3B070	271	SSCC標準化対応法
	3B070	271	GSCC標準化対応法
	3B070	271	MEG(メチルグルカミン)緩衝液を用いる方法
g-GTP	3B090	271	JSCC標準化対応法
コリンエステラーゼ	3B110	272	JSCC標準化対応法(p-ヒドロキシベンゾイルコリン)
	3B110	272	3,4-ジヒドロキシベンゾイルコリン
	3B110	272	5-メチル-2テノイルチオコリン
	3B110	272	2,3-ジメチルベンゾイルチオコリン
	3B110	272	ベンゾイルチオコリン
	3B110	272	ブチルチオコリン
LAP	3B135	271	GSCC準拠法
	3B135	271	酵素法(L-ロイシル-p-ニトロアニリド基質)
アミラーゼ	3B160	271	G3-CNP
	3B160	271	G5-PNP
	3B160	271	G5-CNP
	3B160	271	JSCC標準化対応法(G7-PNP)
	3B160	271	G7-CNP
	3B160	271	ベンジル-G5-PNP
	3B160	271	3-ケトブチリデン-G5-CNP
	3B160	271	6-アジ化-G5-CNP
	3B160	271	ベンジリデン-G7-PNP
	3B160	271	4,6-エチリデン-G7-PNP

	3B160	271	Gal-G2-CNP
	3B160	271	Gal-G4-CNP
	3B160	271	Gal-G5-PNP(CNP)
総酸性フォスファターゼ	3B220	272	DCAP-P基質法
	3B220	272	UV法
クレアチニン	3C015	271	酵素法
	3C015	271	Jaffe法(rate assay法)
尿酸	3C020	271	ウリカーゼ・POD法
	3C020	272	ウリカーゼ・UV法
尿素窒素	3C025	272	ウリアーゼ・GLDH法(消去法)
	3C025	272	ウリアーゼ・GLDH・ICDH法(消去法)
	3C025	272	ウリアーゼ・LED法(回避法)
	3C025	272	ウリアーゼ・酵素阻害法
	3C025	272	ウリアーゼ・伝導率(電極)法
	3C025	272	ウリアーゼ・GLDH法(未消去法)
	3C025	272	ウリアーゼ・イントフェノール法(未消去法)
グルコース	3D010	272	HK法(ヘキソキナーゼ)UV
	3D010	271	GOD法(ブドウ糖酸化酵素比色法)
	3D010	262	電極法(GOD/ブドウ糖酸化酵素)
トリグリセリド	3F015	271	酵素法
	3F015	271	遊離グリセロール消去
	3F015	271	遊離グリセロール未消去
コレステロール	3F050	271	COD-POD法(コレステロール・オキシダーゼ)
	3F050	271	CE-CDH法(コレステロール・デヒドロゲナーゼ)
	3F050	272	コレステロール脱水素酵素(UV)法
HDL-コレステロール	3F070	271	直接法
	3F070	271	沈殿操作法
	3F070	221	超遠心法
LDL-コレステロール	3F077	271	直接法
	3F077	919	計算法
	3F077	221	超遠心法
カルシウム	3H030	271	OCPC法(キレート比色)
	3H030	271	MXB法(キレート比色)
	3H030	271	アルセナゾⅢ法
	3H030	271	クロロホスホナゾⅢ法
	3H030	271	酵素法
	3H030	261	イオン選択電極法
無機リン	3H040	272	モリブデン酸・UV法
	3H040	271	モリブデン・ブルー法
	3H040	271	酵素法
鉄	3I010	271	Nitroso-PSAP法
	3I010	271	ハソフェナントリン法
	3I010	271	Ferene色素法
	3I010	271	フェロジン法
	3I010	271	NPS法
総ビリルビン	3J010	271	酵素法
	3J010	271	化学酸化法
	3J010	271	ハナジン酸(化学酸化法)

*測定法の分類は、共用化サブWGの資料および日本臨床検査技師会の精度管理資料を参考とし

〔資料⑥〕 JSCC標準化対応法について(対応8項目)

クレアチンキナーゼ	3B010	272	JSCC標準化対応法
GOT	3B035	272	JSCC標準化対応法
GPT	3B045	272	JSCC標準化対応法
LDH	3B050	272	JSCC標準化対応法
アルカリフォスファターゼ	3B070	271	JSCC標準化対応法
g -GTP	3B090	271	JSCC標準化対応法
コリンエステラーゼ	3B110	272	JSCC標準化対応法
アミラーゼ	3B160	271	JSCC標準化対応法

JSCC標準化対応法には、272と採番される測定法と271と採番される測定法が混在している。

〔資料⑦〕 材料コード 共用化サブWG資料より

項目	分析物	材料	
尿糖負荷	3D010	001	尿(含むその他)
	3D010	005	時間尿
	3D010	007	負荷後尿
血糖負荷	3D010	019	全血(添加物入り)
	3D010	022	血漿
血液ガス分析	3H080	018	全血
	3H080	019	全血(添加物入り)
	3H080	020	動脈血

[資料⑧]JLAC10の構造変更について

改善サブ WG 会議で出された案

討議対象:検体検査についてのみ

目標:JLAC10 普及のために必要な改善

:データ2次利用などに利用可能なコード構造を考案する。

1. 地域連携が必要な項目に対して検査が一意に表現される 17 桁のセットを提供する。
2. 分析物=分析物+識別とし 9 ケタとする。
3. 分析物(分析+識別)+新識別で 9 ケタとする。

1. 地域連携が必要な項目に対して検査が一意に表現される 17 桁のセットを提供する(案)
共用サブWGと協力し検討する。

2. 分析物=分析物+識別の9ケタ(案)について

- ・分析物コード=検査項目名とすることで、コード体系をシンプルにする。
- ・分析物+識別 or 結果識別(固有)としすべての分析物を9ケタで表示する。
- ・識別と結果固有を有する場合は、従来の識別(4ケタ)に新たなコードを附番する
- ・識別コードと結果固有の両方を有するコードは、定量・定性コードを無視するとアレルギー関係のみの約 34 項目である。

メリット

- 1.JLAC10 コードを大きく変えることなく行える。
- 2.附番の際、分析物コードの選択が容易となる。
- 3.識別コードに関わる重複コード生成の防止となる。
- 4.コード体系が、分析物、材料、測定法、結果(共通)と独立した要素となり、データの検索が容易となる。
- 5.測定方法の細分化により、データ2次利用などにも有用なコードとなる。

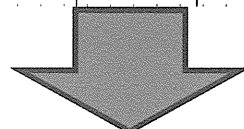
課題

1. 識別と結果固有の両方を有するコードに関しては従来の識別コードの位置にコード新設の必要がある。
- 2.従来に比べて、分析物コード数が多くなる。

以下参考例

結果固有を識別に展開した例

リポ蛋白分画	3F135000002323200	3F135	0000	023	232	00	リポ蛋白分画
リポ蛋白分画	3F135000002323251	3F135	0000	023	232	51	aリポ蛋白
リポ蛋白分画	3F135000002323252	3F135	0000	023	232	52	pre-bリポ蛋白
リポ蛋白分画	3F135000002323253	3F135	0000	023	232	53	bリポ蛋白
リポ蛋白分画	3F135000002323254	3F135	0000	023	232	54	pre b+b



結果固有を識別に移動し
分析物を9ケタで表示

リポ蛋白分画	3F135000002323200	3F1350000	023	232	00
リポ蛋白分画(aリポ蛋白)	3F135005102323201	3F1350051	023	232	01
リポ蛋白分画(pre-bリポ蛋白)	3F135005220323201	3F1350052	023	232	01
リポ蛋白分画(bリポ蛋白)	3F135005302323201	3F1350053	023	232	01
リポ蛋白分画(pre b+b)	3F135005402323201	3F1350054	023	232	01

識別も結果固有も使っている項目について

アレルギー特異IgE	5A100	2804	00	5A100280400	MAST33
アレルギー特異IgE	5A100	2804	51	5A100280451	コナヒョウヒダニ
アレルギー特異IgE	5A100	2804	52	5A100280452	ハウスダスト1
アレルギー特異IgE	5A100	2804	53	5A100280453	ネコ皮膚

			新たな識別		
アレルギー特異IgE	MAST33	5A100	A100	00	5A100A10000
MAST33	コナヒョウヒダニ	5A100	A151	01	5A100A15101
MAST33	ハウスダスト1	5A100	A152	01	5A100A15201
MAST33	ネコ皮膚	5A100	A153	01	5A100A15301

3. 分析物(分析+識別)+新識別で9ケタ(案)について

- ・分析物と識別の役割を分ける。
- ・分析物コードで、院内オーダリングや保険請求など診療事務に必要な情報をカバーする。
- ・識別はデータ2次利用など粒度を高める要素とする。
- ・識別には、新たな役割を持たせる。
- ・桁数は、分析物+識別で9ケタを維持する。

具体案

- 分析物コードを現 5 ケタあるいは、6 ケタで分析物+識別の情報量を確保する。
 - 識別コードは、新たに 2 次利用などに利用可能な粒度をもつ要素とする。
 - オーダコードは、新識別コードは***などを使用し細分化しない。

メリット

- 現状の体系を維持できる。(識別コードが残る)
- 識別コードを有するコードのみの再編で実現可能
- 現状の JLAC10 に新要素を加えることで、従来の用途だけでなくデータ二次利用などに有用な粒度の高い情報を持ち得る。

課題

- 識別コードを有する検査項目の分析物コードを附番する必要がある。
 - 分析物5ケタ
 - 識別コードを有する分析物をすべて附番し直す。
 - 分析物6ケタ(分析 5+識別 1)
 - 1ケタで識別コードを分類する。(たぶん厳しい)
(1分析物1項目に対応する最多識別は 5A100 に約 340 項目ある。)
 - 識別コード 2 ケタなら可能かもしれない
- 新識別の要素をどうするか？
データ二次利用に有効な検査法コードの検討が必要となる。

以下参考例

分析物7ケタ 識別2ケタの例

リポ蛋白分画	3F135000002323200	3F135	0000	023	232	00	リポ蛋白分画
リポ蛋白分画	3F135000002323251	3F135	0000	023	232	51	aリポ蛋白
リポ蛋白分画	3F135000002323252	3F135	0000	023	232	52	pre-bリポ蛋白
リポ蛋白分画	3F135000002323253	3F135	0000	023	232	53	bリポ蛋白
リポ蛋白分画	3F135000002323254	3F135	0000	023	232	54	pre b+b

結果固有を分析物に移動し7ケタとする

識別コードは2ケタで存続させる

リポ蛋白分画	3F135000002323200	3F13500	00	023	232	00
リポ蛋白分画(aリポ蛋白)	3F135510002323201	3F13551	00	023	232	01
リポ蛋白分画(pre-bリポ蛋白)	3F135520002323201	3F13552	00	023	232	01
リポ蛋白分画(bリポ蛋白)	3F135530002323201	3F13553	00	023	232	01
リポ蛋白分画(pre b+b)	3F135540002323201	3F13554	00	023	232	01

〔資料⑨〕頻用コード表

適用コード案	項目名称	項目略称	依頼			結果単位	測定方法	製造メーカー	機器型式	機種名	機器試薬使用例		
			JLAC10(15桁)材料	JLAC10(15桁)材	JLAC10(17桁)						試薬メーカー	試薬名称	製造販売用番号
100100	尿蛋白定量	ニョウタンヨ	1A0150000001271	1A015000000271	1A015000000127100		ヒコロール-レド法	日本電子		BM-1650	和光純薬	マイクTOP-テストコー	(62AM)0160
100101	濃度	ゾウト	1A0150000001271	1A015000000271	1A015000000127101	mg/dl	ヒコロール-レド法	日本電子		BM-1650	和光純薬	マイクTOP-テストコー	(62AM)0160
	蛋白定量[尿]	UJTP	1A0150000001271	1A015000000271	1A015000000127101	mg/dl	ヒコロール-レド法	日立		日立-7700	和光純薬	マイクTOP-テストコー	16200AMZ00160000
		U-TP	1A0150000001271	1A015000000271	1A015000000127101	mg/dl	ヒコロール-レド法				和光純薬	マイクロTP-AR	
100102	尿-TP		1A0150000001271	1A015000000271	1A015000000127101								
100102	一日量	イニチヨウ	1A0150000001271	1A015000000271	1A015000000127126	mg/day	ヒコロール-レド法	日本電子		BM-1650	和光純薬	マイクTOP-テストコー	(62AM)0160
100103	尿蛋白定量	TP-チヨウ	1A0150000001911	1A015000000911	1A015000000191101	mg/dl	試験紙法	アークレイ		オーションマックス	アークレイ	ユリフレット 9UB	
100200	尿糖定量	ニョウケウヨ	1A0250000001272	1A025000000272	1A025000000127200		グルコナーゼ法	日本電子		BM-1650	三善化学社/イニス	イトDLQ GLU	220AJAMX00004000
100201	濃度	ゾウト	1A0250000001272	1A025000000272	1A025000000127201	mg/dl	グルコナーゼ法	日本電子		BM-1650	三善化学社/イニス	イトDLQ GLU	220AJAMX00004000
		U-GLU	1A0250000001272	1A025000000272	1A025000000127201	mg/dl	酵素法(HK-G6PDH法)				シフスト	クイックオートネオGLU-HK	
	尿-Glu		1A0250000001272	1A025000000272	1A025000000127201								
100202	一日量	イニチヨウ	1A0250000001272	1A025000000272	1A025000000127226	mg/day	グルコナーゼ法	日本電子		BM-1650	三善化学社/イニス	イトDLQ GLU	220AJAMX00004000
100203	尿糖定量	GLU-チヨウ	1A0250000001911	1A025000000911	1A025000000191101	mg/dl	試験紙法	アークレイ		オーションマックス	アークレイ	ユリフレット 9UB	
100204	白血球反応(定性)	WBCハン	1A0750000001901	1A075000000901	1A075000000190111								
100205	尿白血球	LEU	1A0750000001911	1A075000000911	1A075000000191101		試験紙法	アークレイ		オーションマックス	アークレイ	ユリフレット 9UB	
100206	白血球定性	・白血球	1A0750000001911	1A075000000911	1A075000000191111		試験紙法	栄研化学		US-3100R	栄研化学	ウロペーパーⅢ	21600AMZ00655000
	白血球	ハツケキョウ	1A0750000001911	1A075000000911	1A075000000191111	-	試験紙法	テラメックス		US-3100R	栄研化学	ウロペーパーⅢ 栄研	21700AMZ00652000
100300	尿沈渣	ニョウチンサ	1A1050000001662	1A105000000662	1A105000000166200		フローサイト法	シスメックス		28B2X10007000114	UF1000		
	尿沈渣		1A1050000001662	1A105000000662	1A105000000166200		フローサイト法	シスメックス			UF-100		
100301	沈赤血球	チンRBC	1A1050000001662	1A105000000662	1A105000000166251		フローサイト法	シスメックス		28B2X10007000114	UF1000		
100302	沈白血球	チンWBC	1A1050000001662	1A105000000662	1A105000000166252		フローサイト法	シスメックス		28B2X10007000114	UF1000		
100303	上皮細胞		1A1050000001662	1A105000000662	1A105000000166253		フローサイト法	シスメックス		28B2X10007000114	UF1000		
100304	円柱		1A1050000001662	1A105000000662	1A105000000166266		フローサイト法	シスメックス		28B2X10007000114	UF1000		
100305	細菌		1A1050000001662	1A105000000662	1A105000000166285		フローサイト法	シスメックス		28B2X10007000114	UF1000		
100400	尿沈渣	Uチンサ	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170100	0	鏡検(無染色)						
100401	赤血球(RBC)	R	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170151	0	鏡検(無染色)						
100402	白血球(WBC)	W	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170152	0	鏡検(無染色)						
100403	上皮細胞		1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170153	0	鏡検(無染色)						
100404	扁平上皮細胞	EP	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170154	0	鏡検(無染色)						
100405	移行上皮細胞	TSC	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170155	0	鏡検(無染色)						
100406	尿管上皮細胞	ニョウサカ	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170156	0	鏡検(無染色)						
100407	細胞質内封入体	ソウナイ	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170157	0	鏡検(無染色)						
100408	網状脂肪体	ラツケイ	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170158	0	鏡検(無染色)						
100409	円柱上皮細胞		1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170159	0	鏡検(無染色)						
100410	核内封入体細胞	カクナイフ	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170160	0	鏡検(無染色)						
100411	脂肪顆粒細胞	FG	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170161	0	鏡検(無染色)						
100412	大食細胞(マクロファージ)	マシヨク	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170162	0	鏡検(無染色)						
100413	異型細胞	イケイ	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170163	0	鏡検(無染色)						
100414	分類不能細胞		1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170164	0	鏡検(無染色)						
100415	小円形(上皮)細胞	SRC	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170165	0	鏡検(無染色)						
100416	円柱		1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170166	0	鏡検(無染色)						
100417	硝子円柱	HCT	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170167	0	鏡検(無染色)						
100418	上皮円柱	ECCT	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170168	0	鏡検(無染色)						
100419	顆粒円柱	GCT	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170169	0	鏡検(無染色)						
100420	鱗様円柱	ロウゴウCT	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170170	0	鏡検(無染色)						
100421	脂肪円柱	FCT	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170171	0	鏡検(無染色)						
100422	赤血球円柱	RBCT	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170172	0	鏡検(無染色)						
100423	白血球円柱	WBCT	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170173	0	鏡検(無染色)						
100424	ヘモグロビン円柱		1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170174	0	鏡検(無染色)						
100425	ヘモジリン円柱		1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170175	0	鏡検(無染色)						
100426	ミオグロビン円柱		1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170176	0	鏡検(無染色)						
100427	アミロイド円柱		1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170177	0	鏡検(無染色)						
100428	蛋白円柱		1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170178	0	鏡検(無染色)						
100429	空胞変性円柱	クホウCT	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170179	0	鏡検(無染色)						
100430	血小板円柱		1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170180	0	鏡検(無染色)						
100431	細菌円柱		1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170181	0	鏡検(無染色)						
100432	ビリルビン円柱		1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170182	0	鏡検(無染色)						
100433	塊状(結晶)円柱		1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170183	0	鏡検(無染色)						
100434	細菌	BAC	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170185	0	鏡検(無染色)						
100435	真菌		1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170186	0	鏡検(無染色)						
100436	原虫(トリコモナス)	トリコモナス	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170187	0	鏡検(無染色)						
100437	通常結晶		1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170190	0	鏡検(無染色)						
100438	異常結晶		1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170191	0	鏡検(無染色)						
100439	無晶性塩類		1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170192	0	鏡検(無染色)						
100440	粘液	M	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170193	0	鏡検(無染色)						
100441	その他1		1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170194	0	鏡検(無染色)						
100442	その他2		1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170195	0	鏡検(無染色)						
100443	その他3		1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170196	0	鏡検(無染色)						
100444	-沈渣尿量	-沈渣尿量	1A1050000001701	1A105000000701	1A105000000170101	ml	鏡検(無染色)						
100500	尿沈渣		1A1050000001735	1A105000000735	1A105000000173500		鏡検(その他染色)						
100501	赤血球(RBC)	R	1A1050000001735	1A105000000735	1A105000000173551	0	鏡検(その他染色)						
100502	白血球(WBC)	W	1A1050000001735	1A105000000735	1A105000000173552	0	鏡検(その他染色)						